

## 研究テーマ

## メガネフレーム、サングラス、老眼鏡などのデザイン開発

## 目的・概要

福井県眼鏡協会との産学連携事業は本年度で13年目。ここまで長く続けてこられたのは、本学の受け入れ体制が、メガネ部活動として活動していることで、その特徴は、毎年新入部員が20名近く入って来て、部員数が50名を超える大人数体制であること、これにより、常に新鮮なデザインが期待できる。そして、学年が1年～4年までいることで、過去何年ものメガネデザインノウハウが受け継がれていること。この2つの大きな特徴により、毎年提案する斬新でクオリティの高い金沢美大のデザイン力が、福井県のメガネ業界のデザインの刺激となり、長く良い連携関係を築いてきた。今年度は、フレームに新しい技術や機能を取り入れた少し未来のメガネフレームの提案が期待され、先進的なアイデアを提案するとともに、精力的に様々な活動を展開した。

## 期 間

2013年5月から2014年3月

## 委 託 者

一般社団法人 福井県眼鏡協会

## 研究体制

プロジェクト型(一部授業導入)

## 担当教員

デザイン科 製品デザイン専攻 浅野 隆 教授(産学連携センター長)

## 参加学生

デザイン科 製品デザイン専攻	4年
	川崎友寛、北村菜穂、佐伯有果、酒元菜摘、関戸駿介、廣村沙也加、西岡大貴*、松本麻美*、若狭智愛*(*相談役)
	3年：江口広子(部長)、村田駿(副部長)、山本憲吾(会計)、荒崎紅音、今村俊太、狩野 梓、川口真那子、西澤 実、橋場雄伍、別所 潮、松井つぐみ、水口正夫、山田かおり、横山 舞
	2年：秋山朝子、今村美月、伊村拓見、熊山優路、佐藤大輔、鈴木 僚、田原彩友美、村井菜月、森 雪子
	1年：池田有希、石田晴希、一丸真奈美、鷺川由似、江原次郎、大石由貴、加藤美咲、北出琢朗、楠原領基、黒澤 秀、桑原孝史、合田真子、坂井美香、正入木雄哉、白木 伸、武井亮子、當房愛美、馬場菜摘、松本優子、溝越万莉、師 直樹

# PROCESS

2013.05  
2013.05~07  
2013.06  
2013.08  
2013.08.29~09.08  
2013.09  
2013.09.26~29  
2013.10  
2013.11  
2014.01

オリエンテーション  
アイデア検討会、発表会の開催  
製品デザイン演習(四)授業に導入  
鯖江メガネ工場見学会開催  
第8回金の卵に出展  
自作オリジナルデザインフレーム制作  
シルモ展(パリ)視察同行  
iOFT出品  
美大祭に展示  
「社会に貢献する金沢美大のデザイン力」展で展示



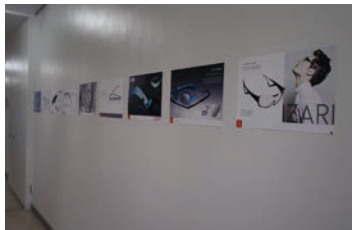
## オリエンテーション

福井県眼鏡協会より、坂野専務、宮嶋専務、役員の長井社長、谷口社長を迎え、今年度連携テーマの概要と学生への期待する思いをお話いただいた。



## アイデア検討会、発表会の開催

複数回の学内ミーティングにより意見交換を重ね、徐々にブラッシュアップ。



## 製品デザイン演習(四)授業に導入

2週間の産学連携授業で、未来のメガネをテーマに一人1案提案し学内展示も行った。



## 鯖江メガネ工場見学

谷口眼鏡、(株)長井、竹内眼鏡を訪問し、実際の生産現場を見学させていただき、制作プロセスや製品についての解説を受け、生産システムを学んだ。



## 第8回金の卵展とプレゼンテーション

4年松本麻美さんのデザインした2案が商品化されたので、金の卵展に出展した。また、デザイン制作過程などメガネ部の産学連携活動をプレゼンテーションした。(会場:六本木アックスギャラリー)



## 美大祭に展示

iOFT出展パネルと自作オリジナルメガネを美大祭に展示した。



## iOFT出展と視察

16点のデザイン作品をiOFTに出展し、世界のオプティカルバイヤーに広く発表する機会を得た。(会場:東京ビックサイト)部長以下代表の学生4名が視察を行った。



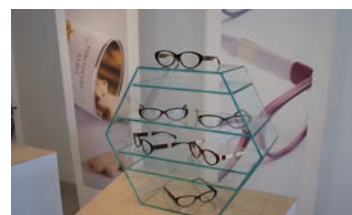
## シルモ展視察

本年度福井県眼鏡協会よりデザインランプリに選ばれた、4年佐藤晴香さんが、副賞としてフランスパリのシルモ展視察に同行させていただいた。(会場:フランス パリ)



## 自作オリジナルメガネ制作

メガネ部1年生の夏休みの宿題として、自作メガネの制作を行った。



## 「社会に貢献する金沢美大のデザイン力」展覧会に出展

2014.1.15~19 会場:大阪中之島デザインミュージアム

産学連携センター 研究成果報告書

**Taste**

高級原料のみでつくられたワインを盛り合わせます。  
ワイン

細密な質感のチョコレートと、甘みと苦みのバランスが絶妙なチョコレートです。  
チョコレート

国内産の生クリームと、芳醇な香りの生クリームを組み合わせます。  
生クリーム

甘みと苦みのバランスが絶妙なチョコレートと、芳醇な香りの生クリームを組み合わせます。  
チョコレート

甘みと苦みのバランスが絶妙なチョコレートと、芳醇な香りの生クリームを組み合わせます。  
チョコレート

甘みと苦みのバランスが絶妙なチョコレートと、芳醇な香りの生クリームを組み合わせます。  
チョコレート

**MIJEL**  
ミジェル

MIJELは混ぜて食べるゼリーです  
今までのように決められた味の中から選ぶ必要はありません。豊富な種類の中から好きなフレーバー3種類を選び、自分だけのオリジナルゼリーが作れます。名前のおまけは「混ぜるゼリー」にちなんでmixと jellyを組み合わせ MIJEL というネーミングが生まれました。

様々な組み合わせを味わう楽しみ  
フレーバーの種類は様々です。基本のフレーバーは十二種類。そこに季節ごとに追加されるフレーバーを入れれば組み合わせの数は無限大です。フレーバーの違いだけでなく、ゼリーの舌触りの違いにもこだわっています。

自分へのご褒美や手土産として  
自分だけのオリジナルフレーバーを考えるだけでなく、誰かのことを思ってフレーバーの組み合わせを考える「贈る楽しみ」も MIJEL の魅力のひとつです。見た目にも味にも思わず自分へのご褒美に、誰かへのプレゼントとして喜ばれる MIJEL は 20〜30代の女性の心をくすぐる商品です。

**Swan Liqueur**

お酒をあまり飲まない 20代の女の子たち  
彼女たちが夢中なのは「かわいい」もの

パッケージデザイン

二面図

研究テーマ

# 真空成形の魅力をもっと活かした新デザインの提案

目的・概要

新しいパッケージの提案を通じて既存の商品にはない「明確な特徴と価値」を、昨年に引き続き提案する。今回は「組み合わせ方で中身が引き立つ容器」というテーマを与え、かたちに限らず、質感、文化、味など、特性が違ったものを組み合わせることによって生まれる面白さを元にアイデアを広げていった。既存の固定観念にとらわれず、学生らしいフレッシュな視点や感覚を盛り込んで新しい価値を創造する。

期間

2013年6月1日から2014年3月27日

委託者

馬場化学工業株式会社

研究体制

プロジェクト型

担当教員

デザイン科 環境デザイン専攻	畝野裕司 准教授
デザイン科 視覚デザイン専攻	坂野 徹 講師

参加学生

デザイン科 視覚デザイン専攻	2年：小林千夏、名和礼萌、村田敦子
デザイン科 製品デザイン専攻	2年：今村美月、清水真帆、田原彩友美、船本真希、吉野あゆみ
デザイン科 環境デザイン専攻	2年：三條場未紗、渡邊里菜

# PROCESS

2013.07.01

昨年メンバーと意見交換

2013.07.16

オリエンテーション

2013.08.12

中間プレゼンテーション

2014.03.27

最終プレゼンテーション



## 意見交換

昨年のメンバーを招いて意見を交換した。失敗談やアイデアの展開方法など、制作上のポイントが継承された。

## オリエンテーション

本学においてオリエンテーションがおこなわれた。馬場社長より本プロジェクトの主旨が説明された。



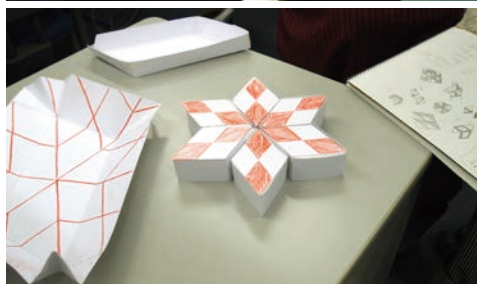
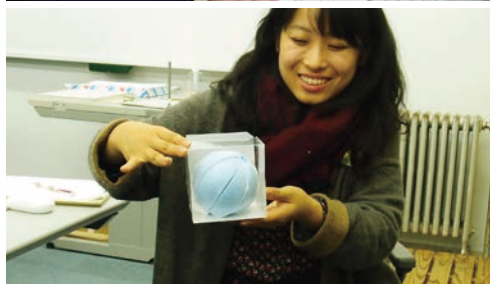
## 中間プレゼンテーション

中間プレゼンテーションの様子。アイデア出しを経て7名がプレゼンテーションに臨んだ。



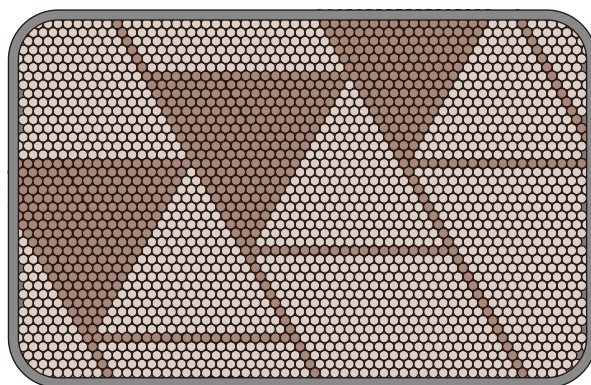
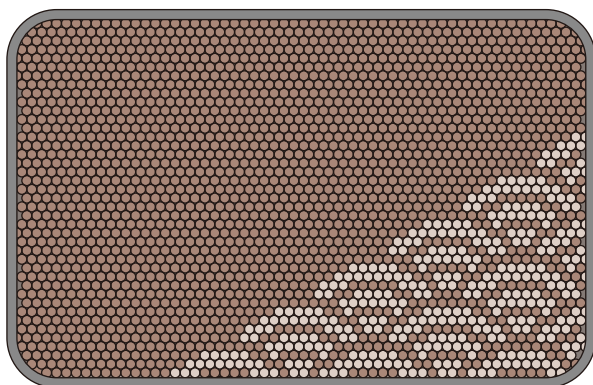
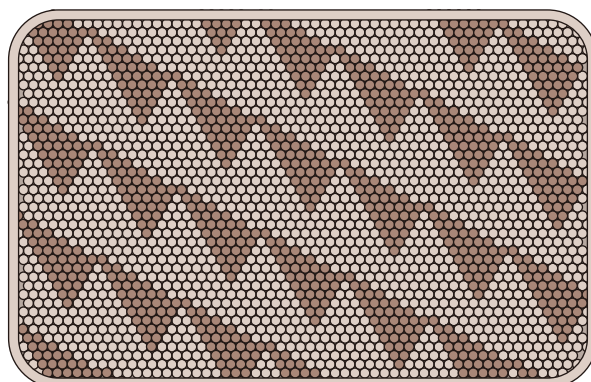
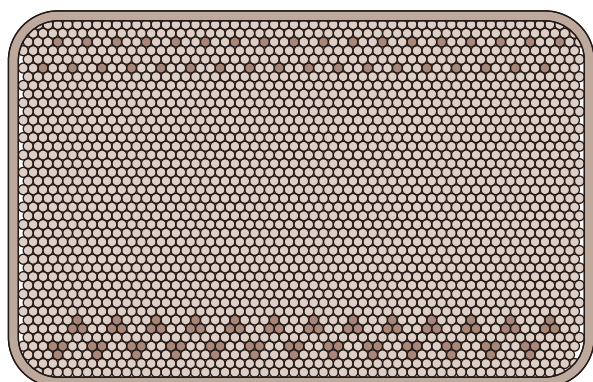
## ブラッシュアップ

馬場化学工業との協議の結果、5名の学生が1案ずつ選抜された。ほぼ週1回のペースで最終プレゼンテーションに向けてのブラッシュアップをおこなった。積極的にモデルを制作しながら試行錯誤を続けた。



## 最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションの様子。今期は全員が女子学生ということもあり、展示方法まで想定した華やかな案が多かった。容器の制作方法なども含めた活発な意見交換がおこなわれた。



## 研究テーマ

## 珪藻土バスマットのパターンデザインの提案

## 目的・概要

「珪藻土吸水マットPOROUS」は、優れた吸放湿性をもつ能登産の珪藻土を使用したバスマットである。現行品のパターンデザイン改良提案することで、商品のイメージアップを図った。

## 期 間

2013年5月1日から2014年3月31日

## 委 託 者

馬場化学工業株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 環境デザイン専攻 畝野裕司 准教授

## 参加学生

デザイン科 環境デザイン専攻 2年：渡邊里菜

# PROCESS

2013.05.01

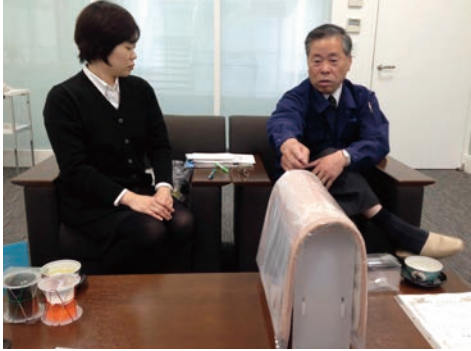
2013.08.12

2014.03.27

オリエンテーション

中間プレゼンテーション

最終プレゼンテーション



## オリエンテーション

馬場化学工業株式会社においてオリエンテーションがおこなわれた。馬場社長より本プロジェクトの主旨が説明された。

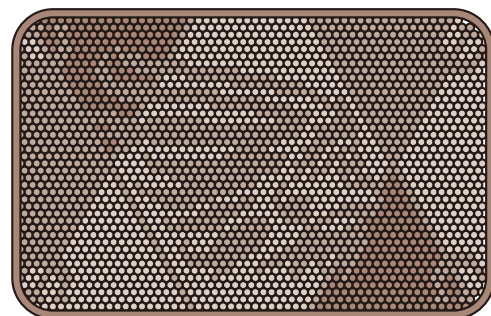
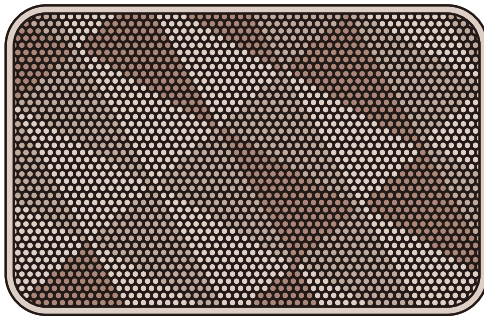
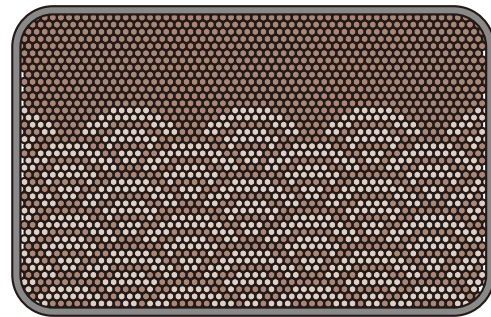
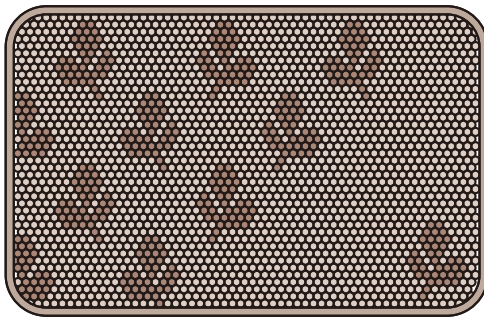


## 中間プレゼンテーション

中間プレゼンテーションの様子。  
4方向のアイデアでプレゼンテーションに臨んだ。



## 初期提案



## ブラッシュアップ

積極的に手を動かしながらの試行錯誤を行い、生産時の作業性を配慮しデザインを修正した。

## 最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションでは馬場社長と活発な質疑応答が繰り返された。



## 研究テーマ

## これからの通信販売用パッケージデザイン

## 目的・概要

急速に拡大している通信販売事業で活用される流通用パッケージの新たな可能性を求め、学生の自由なひらめきを積極的に取り入れ、他社に無い付加価値の有る魅力的なデザインを模索した。

## 期 間

2012年11月1日から2013年9月30日

## 委 託 者

上六印刷株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 環境デザイン専攻 畝野裕司 准教授

## 参加学生

デザイン科 環境デザイン専攻	3年：岩田奈津実、松野明佳
	2年：小川信大、堀 正文、山内朱璃
	1年：渡邊里菜
デザイン科 製品デザイン専攻	2年：別所 潮

# PROCESS

2012.11.06

オリエンテーション

2013.02.14

中間プレゼンテーション

2013.06.12

最終プレゼンテーション

2013.07.10

「インターフェックス内  
医薬品包装エキスポ」展示参加



## オリエンテーション

本学においてオリエンテーションがおこなわれた。  
川添部長より本プロジェクトの主旨が説明される。



## 中間プレゼンテーション

中間プレゼンテーションの様子。  
紙で手作りした試作品を持ち込んでプレゼンテーションに臨んだ。



## 第2回オリエンテーション

本学において第2回目のオリエンテーションがおこなわれた。  
川添部長より後半のプロジェクト主旨が説明される。



## 特許申請打ち合わせ

特許申請打ち合わせ。機能の新規性を積極的に説明をする学生達。  
(ア) 2013/7/9出願:特願2013-143563  
(イ) 2014/1/8出願:特願2014-001683



## 最終プレゼンテーション

作り込んだ試作モデルでの最終プレゼンテーションの様子。  
活発な質疑応答が繰り返された。



## 「インターフェックス内 医薬品包装エキスポ」 展示参加

「インターフェックス内医薬品包装エキスポ」上6印刷様ブースに  
展示参加。





## 研究テーマ

CO<sup>2</sup> 排出抑制効果を有する循環型素材であるバイオマス由来の環境配慮型プラスチック「テラマック」を用いたプロダクツの提案

## 目的・概要

ユニチカ株式会社テラマック事業開発部と金沢美術工芸大学との共同プロジェクト。4月のオリエンテーションから始まり、半年間にわたるミーティング、制作、プレゼンテーションを経て、51案の企画から最終的に12案が残った。9月の最終プレゼンではさらにブラッシュアップされたプレゼンテーションが繰り広げられ、それらの中から選考によって3つの作品が選ばれた。これらの作品は、エコプロダクツ展(12月12日(木)–14日(土))にて披露された。展示ブースにおいても、学生たちのアイデアも取り入れたデザインとなっている。

## 期 間

2013年4月から2013年9月

## 委 託 者

ユニチカ株式会社 テラマック事業開発部

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 製品デザイン専攻	浅野 隆 教授(産学連携センター長)、河崎圭吾 教授
デザイン科 環境デザイン専攻	北村賢哉 准教授
デザイン科 視覚デザイン専攻	坂野 徹 講師

## 参加学生

デザイン科 製品デザイン専攻	3年：狩野 梓、小久保延哉、吉崎なな実
デザイン科 環境デザイン専攻	3年：岡田侑里、三村絢子 2年：成子夏芽
デザイン科 視覚デザイン専攻	3年：赤浜葉子、大漉隼人、林 千文

# PROCESS

2013.04.04  
2013.04.15~05.28  
2013.06.03  
2013.06.21~2013.07.17  
2013.07.18  
2013.07.23・08.07  
2013.09.20  
2013.12.12

オリエンテーション&会社ショールーム見学  
学内アイデア検討会  
追加サンプルによる質疑応答  
学内アイデア検討会  
中間プレゼンテーション  
学内アイデア検討会  
最終プレゼンテーション  
エコプロダクツ展で発表



## オリエンテーション&会社ショールーム見学

「テラマック」はとうもろこしから生まれた、バイオマス素材。地球環境に負荷をかけないエコロジーマテリアルとして注目を集め、フィルム、シート、繊維、スパンボンド、樹脂など、さまざまなカタチで展開している。ユニチカ本社を訪問し「テラマック」の商品に関する様々な情報をいただいた。



## 学内アイデア検討会

2週間に一度の割合で、メンバーと集まりそれぞれが考えて来たアイデアと、お借りした「テラマック」のサンプルを基にアイデア検討会を重ねた。



## 追加サンプルによる質疑応答



## 中間 プレゼンテーション

51案のアイデアを説明し、結果12案に絞り込まれた。それらをモデル検討を重ね更にブラッシュアップしていった。

## 最終プレゼンテーション ブラッシュアップされた9案の中から3案が選ばれた。



### テラマック賞…テラマック砂時計

大漣隼人【視覚デザイン専攻3年】

砂のなかにテラマック性の都市のオブジェを入れた砂時計。生分解性プラスチックというテラマックの特性を可視化したもの

### 広報賞…街のオブジェプランター／一輪挿し

成子夏芽【環境デザイン専攻2年】

建物を模した小さなプランター。テラマック樹脂を使用し、テラマックの「重い」「紫外線に強い」という特徴を活かした作品

### 美大賞…まゆだまプランター

狩野 梓【製品デザイン専攻3年】

天井や軒下からつるして植物を育成するプランター。最大の特徴は土を必要としないこと。繊維部分も樹脂部分もすべてテラマックを使用



## エコプロダクツ展で発表

2013年12月12日~14日に東京ビッグサイトにて行われたエコプロダクツ展のユニチカブースにて展示発表された。マスコットガールの松田莉奈さんとトークショーにも3人の受賞者が参加。ブースデザインも提案し、全体のブースイメージはとても楽しく明るいイメージに仕上がった。



## 研究テーマ

## 新しいロードベストの在り方 ～普段でも着用出来る安全ベストのデザイン提案～

## 目的・概要

中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社では、反射材を使用したベストをサービスエリアなどで安価に販売している。このベストは、高速道路上の事故などにおいて、乗員が車外において活動しなければならない際に、他の運転者からの視認性を高め、事故発生を防止することを目的としている。今回の制作研究は、この安全確保を目的としたベストについて、様々な年代の方が通勤通学や道路上でのスポーツ時など日常でも着用できる形態を探るものである。中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社にとっては、成果をもって高速道路利用者への技術による還元を目指し、また美大生にとっては、現場に関わる方々の意見を踏まえながらデザインプロセスを経験する、貴重なインターンシップの場として制作研究を行った。

## 期 間

2013年9月から2014年5月

## 委 託 者

中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京 株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 環境デザイン専攻	鏑 隆弘 教授
大学院 デザイン科 ファッションコース	村山祐子 准教授

## 参加学生

大学院 デザイン科 ファッションコース	2年：大戸千尋、森岡まりの、山下健人
	1年：黒田 茜、宮本 緑

# PROCESS

2013.09.18  
2013.10.17  
2013.11.19~20  
2014.01.15  
2014.01.21・02.21  
2014.02下旬  
2014.03.05

条件の確認  
プロジェクト内容説明会  
ヒアリング・リサーチ  
工場見学と展開の可能性の検討  
第1・2回 中間プレゼンテーション  
オリジナル生地発注  
最終案検討会

## 条件の確認

商品についてのレクチャーを受け、これまでの経緯と今後のニーズを理解する等、デザインする商品に求められる条件の確認作業を行った。(金沢美術工芸大学にて)

## プロジェクト内容説明会

参加学生を交えて、プロジェクト内容の説明が行なわれた。学生からは、様々な踏み込んだ質問がなされ、充実した質疑応答となった。(金沢美術工芸大学にて)



プロジェクト内容説明会

## ヒアリング・リサーチ

- 製品に求められる条件などについての質疑応答
- 都市部防災空間の見学(都庁展望室から)
- 国立近代美術館工芸館におけるリサーチ
- 巣鴨における高齢者のファッション傾向のリサーチ

(中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社 本社(東京)にて)



第1回プレゼンテーション

## 工場見学と展開の可能性の検討

反射性生地制作工場の見学と展開の可能性の検討を行った。

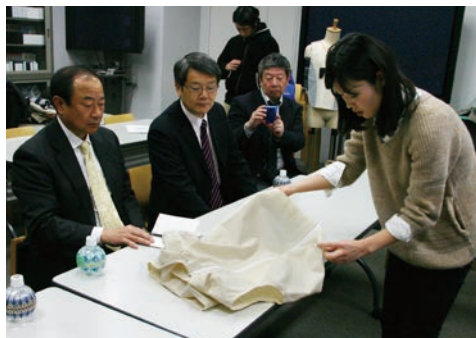
実際に製造工程や参考商品を見せて頂きレクチャーを受ける事で、新たな可能性を探る糸口を見つける事が出来た。

## 中間プレゼンテーション

2回にわたり中間プレゼンテーションを行なった。第1回目で大まかな方向性を決め、2回目でその絞り込みを行なった。クライアントの要望を確認しながら作業を進めた。(金沢美術工芸大学にて)

## オリジナル生地発注

2回のプレゼンテーションにわたって絞り込んで来たデザイン案をまとめ、反射材の必要箇所・メーター数を確認。データを作り、特殊生地工場へオリジナル生地を発注。



第2回プレゼンテーション 最終プレゼンでの試作品(右は夜、車のライトに照らされた状態)



## 最終案検討会

最終案検討会(最終プレゼンテーション)試作モデルを用いデザイン提案。新しい発想や、オリジナルテキスタイルによる意外な効果等もあり、活発に意見交換が行なわれる等、活気ある検討会となった。(金沢美術工芸大学企画情報室にて)

大学院デザイン科ファッションデザインコースの学生5人が参加し、最終的に3案について実物を制作、検討と評価を行った。

### 1.反射材ドット型案

反射材を小さなピースで、ベストの全体にちりばめた形態。ピースの配置によっては、様々なグラフィックに展開が可能。顔の形に配置することで、運転者が反射的に回避する習性に期待できる。収納時は巾着型になり、持ち運ぶ際の見え方に対し細かく配慮されたものとなった。

### 2.反射材ライン型案

女性も気軽に着用できる形態を追求したもの。反射材をフードやポケットなどの縁辺部に限定して使用することで、夜間の見え方が特徴的なものとなった。収納時の留め具を兼ねた大きなボタンとフードが形態を印象的なものとしている。また、フードは災害時に使用することを想定し、防寒の機能も目的としている。

### 3.反射材面型案

帷子のグラフィックをあしらった反射材を面的に取り入れた形態。既製品の利点を取り入れ、反射材を使用してリデザインしたもの。立体裁断することで、スポーティな印象を与える。日本人が中心となり使用することを想定し、使用しやすい黒色と、明るい白系のものを提案する。



## 研究テーマ

## 北陸新幹線用車内販売ワゴンの デザイン・製品開発

## 目的・概要

平成27年に開業する北陸新幹線車内の快適性と利便性を向上させ、乗客により良い旅を提供するため、現在使用されている車内販売ワゴンの新しい姿をデザインした。ワゴンに関わる販売システムや管理及び実際の列車内での販売状況などの現状調査や分析に十分に時間をかけ、乗客と販売員双方にとって心地よく、列車内のインテリアと調和する外観と機能性を追求した。

## 期 間

2013年7月25日から2014年3月31日

## 委 託 者

シシクアドクライス株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 製品デザイン専攻 村中 稔 教授、根来貴成 准教授

## 参加学生

デザイン科 製品デザイン専攻 4年：川崎友寛

# PROCESS

2013.08	調査
2013.09	アイデア展開
2013.10	機能検討モデル:寸法、販売商品実装
2013.11	デザイン決定
2013.12	最終モデル完成
2014.02	最終プレゼンテーション

## ワゴン販売運用に関するヒアリング調査

- ワゴン保管場所から駅構内への移動、列車への積み込み
- ワゴン本体の仕様、機構、問題点
- 商品のラインアップ、レイアウト、保管方法、補充方法
- 販売員の顧客に対する商品や金銭の受け渡し、車内でのアナウンス等のサービス

## ワゴン販売の実態調査

列車で移動しながら、実際に商品を購入し販売員の行動やワゴンの運用を確認した。

行程:金沢～京都～東京～越後湯沢～金沢

観察内容:商品を購入し、それらの扱い方と金銭を受け渡す動作、通路やドア付近の動作、ワゴンの列車への移動(駅構内)等



## 実験

既存の製品による実証実験

借用した既存の販売ワゴンに商品を実装し、椅子を並べて通路を設けることで販売側、購入側の疑似体験と行動分析を行った。

## デザイン検討

モデル完成後に検討会を開いて、細部の造形処理や素材、仕上げ、色彩などを決定した。

## 最終プレゼンテーション

デザインコンセプト及び調査報告、デザインポイントなどを発表したあと、最終モデルで機能性や細部について説明した。





## 研究テーマ

## 「金沢の水」クラフト手まり シュリンクラベル等の新デザイン

## 目的・概要

平成22年度産学連携プロジェクトで開発した、「金沢の水」クラフト手まりボトルは、平成24年9月より赤青2色で販売を開始し、観光みやげとして計画を上回る順調な売れ行きを続けている。今回はこれに加えて新色2色のシュリンクラベル、リーフレット等のデザインを研究委託された。これによって当初の計画通り、春夏秋冬の4色のバリエーションが揃った。北陸新幹線の金沢開業を控え、金沢の魅力を伝えるアイテムとして広く活用したい。

## 期 間

2013年6月3日から2014年3月31日

## 委 託 者

金沢市企業局

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 製品デザイン専攻 浅野 隆 教授(産学連携センター長)

デザイン科 環境デザイン専攻 畝野裕司 准教授

## 参加学生

デザイン科 環境デザイン専攻 2年：渡邊里菜

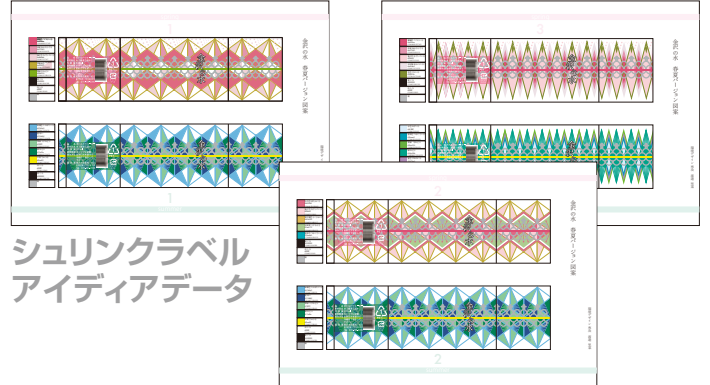
# PROCESS

- 2013.06.03 受託ミーティング
- 2013.07 シュリンクコンセプト、アイデア展開
- 2013.08 シュリンクラベル最終決定
- 2013.09 生産開始、リーフレットデザイン展開
- 2013.10 リーフレット提案、ダンボール色提案
- 2013.12 納品、発表



## カラーコンセプト提案

おだやかに色づいた桃の花をイメージした「春」、みずみずしい緑と清涼感をイメージした「夏」の2色が変わり、これまでの紅葉の「秋」と雪吊りの「冬」と合わせ、金沢の四季が揃いました。



## シュリンクラベルアイデアデータ



## リーフレットアイデア提案

## 撮影(金沢市旧園邸)

大正時代の文化財建造物である金沢市旧園邸の縁側をお借りして、リーフレット、ポスターの写真撮影を行った。春夏バージョンらしいみずみずしい仕上がりとなった。



## リーフレットデザイン



## 記者発表

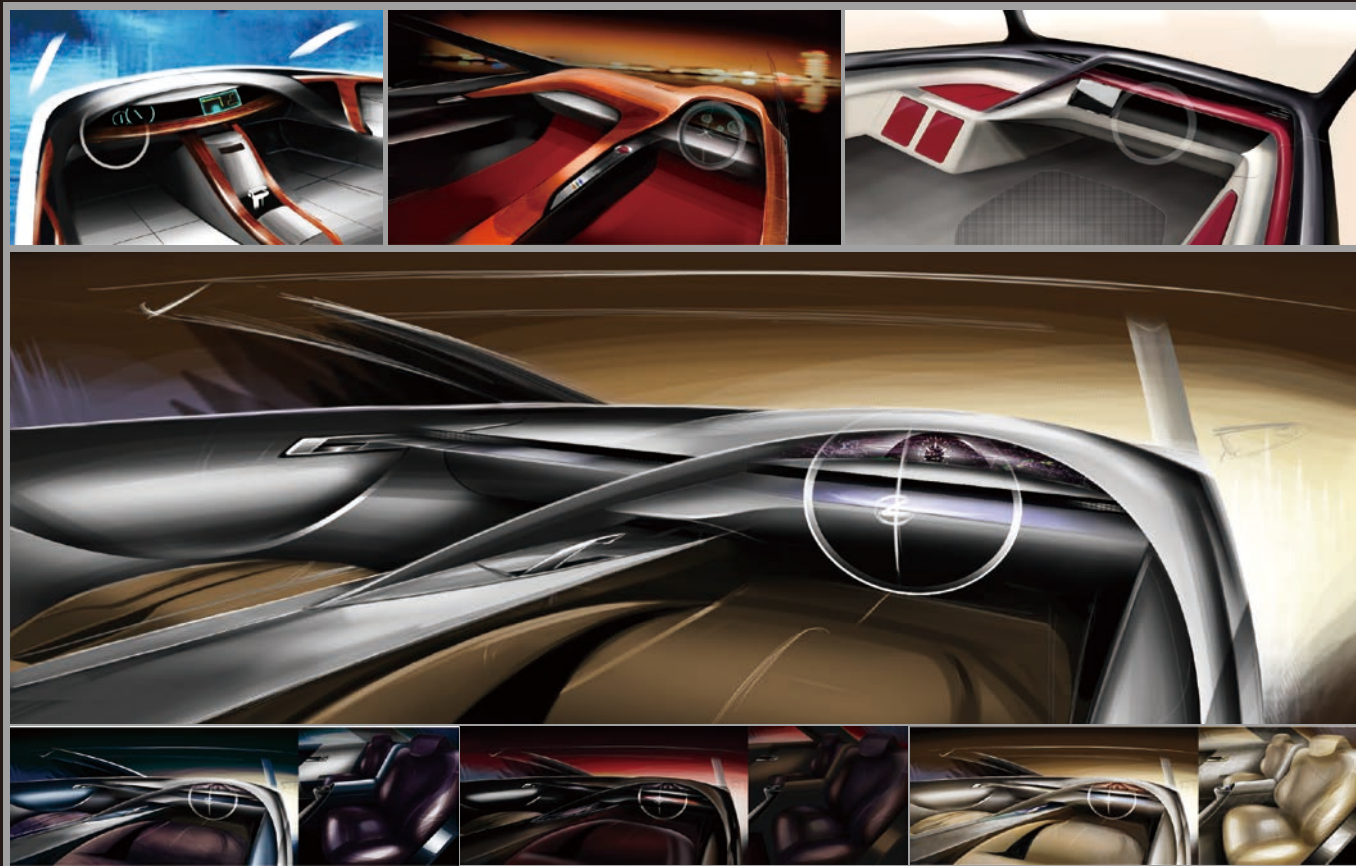
新色ボトルを加え、春夏秋冬「金沢の四季が揃いました」をキャッチコピーとし、2013年12月13日記者発表、12月20日販売開始。(シュリンクラベル、リーフレットをデザインした渡邊里菜さん)

## 「社会に貢献する金沢美大のデザイン力」展にて展示

会場：大阪中之島デザインミュージアム  
会期：2014年1月15日～19日







## 研究テーマ

## 各車型チームによる新しい内装デザインの提案

## 目的・概要

連携2年目となる本年は、より具体的な車型を設定し、その次期型の内装デザインについて、ターゲットユーザーを設定した新しいコンセプトを若者目線から研究し、提案することを目的とした。それぞれチームにより議論を重ね、新しい内装デザインの提案を行った。

## 期間

2013年4月から2014年3月

## 委託者

小島プレス工業株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 製品デザイン専攻 浅野 隆 教授(産学連携センター長)

## 参加学生

デザイン科 製品デザイン専攻	Aチーム	3年: 金子翔哉、山本憲吾、土田純平
	Bチーム	3年: 橋場雄伍、村田 駿、小久保延哉、薄上紘太郎
	Cチーム	3年: 狩野 梓、川口真那子、高橋瑞紀、西澤 実
	Dチーム	4年: 岡 菜々子、小林弘幸、佐藤晴香、松本麻美、 大学院: 木村礼紀

# PROCESS

2013.04.22  
2013.05.10~11  
2013.06~08  
2013.10.18  
2013.11.8  
2013.12  
2013.12.13

キックオフ・オリエンテーション  
工場見学 調査発表  
アイデア検討会開催  
中間発表会  
最終報告会  
TV会議  
小島社長プレゼンテーション



## オリエンテーション

小島プレス工業よりテーマの概要説明を受け、本学のチーム自己紹介を行った。その後、持参していただいた現行内装部品の実物を手にとって、加飾の素材感や製品の成形方法などについて学んだ。

## 工場見学

本社工場で全体説明の後、アルミ成形見学、鉄部品（ブリー、トランスファー）成形を見学した。高岡工場では、加飾工程、塗装工程などを見学した。昌和合成では、本木の加飾パネルの製造工程を見学した。現場の製造工程を見学することは、いいデザインを生み出すための重要なプロセスで、大変貴重な経験となった。



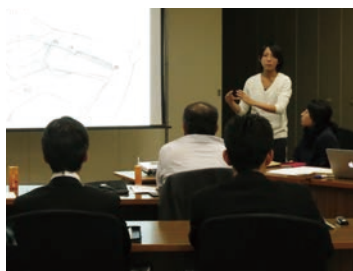
## 調査発表

小島プレス工業本社プレゼンテーションルームにて、各チームそれぞれ担当する車型の調査と、若者の価値観等の発表を行った。



## アイデア検討会、発表会の開催

複数回の学内ミーティングにより意見交換を重ね、徐々にブラッシュアップ



## 中間報告会

本プロジェクト担当役員をお迎えし、中間報告会を開催した。各チーム最終プレゼンテーションに向け、提案の方向性の確認と最後のブラッシュアップへのアドバイスをいただいた。



## 最終報告会

各チーム、検討を重ねた最終提案のコンセプトをPPTにてプレゼンテーションした。また、それらをわかりやすくB1パネルにまとめて表現した。



## テレビ会議

小島プレス工業から、社長プレゼンに向けた各チームへの最後の要望を、TV会議で議論した。

## 小島社長プレゼンテーション

小島社長が来学され、本年度産学連携の経過と全成果を発表した。今年は、具体的な車型を設定したリアリティのあるテーマに向けた提案であったことで、社長の講評も現場の仕事に近い熱の入ったお言葉で、学生メンバーには良い教育的経験となった。

## 産学連携センター 研究成果報告書



## 研究テーマ

## 素材を意識した新しい加飾提案

## 目的・概要

自動車部品メーカーで製造される加飾部品に対して学生の新しい視点での開発を依頼され、今回で2年目となる。前は、パターンを中心として提案したが、今回は素材感を活かした新しい加飾素材の提案を試みた。視覚デザインの学生に工芸科の学生が関わったことで、素材の探求ができた。

## 期 間

2013年4月から2014年3月

## 委 託 者

小島プレス工業株式会社

## 研究体制

プロジェクト型

## 担当教員

デザイン科 視覚デザイン専攻	工藤俊之 教授 寺井剛敏 教授
工芸科	原 智 教授

## 参加学生

デザイン科 視覚デザイン専攻	3年：梅村晴香、佐々木美華、久永真輝
工芸科	4年：和田真以子
大学院 工芸専攻	1年：木谷 洋

# PROCESS

2013.04.22  
2013.04.26  
2013.05.10  
2013.05.11  
2013.05.31・06.19  
2013.06.19  
2013.07.25・08.09・08.27  
2013.10.18  
2013.11.08  
2013.12.13

キックオフ  
ディーラー見学  
工場見学  
オリエンテーション  
学内ミーティング  
素材検討会  
ミーティング  
役員進捗説明会  
最終プレゼンテーション  
小島社長プレゼンテーション



キックオフ



ディーラー見学



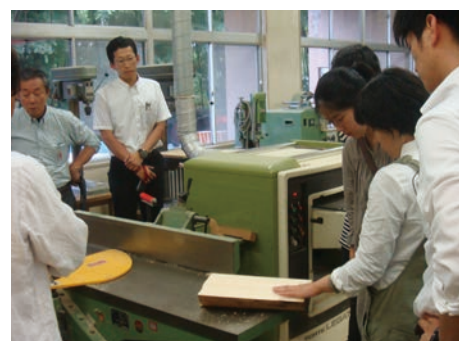
工業見学までの資料作成



工場見学



ミーティング



素材検討会



ミーティング



役員進捗説明会



小島社長プレゼンテーション